

科目名	専門演習Ⅱ SeminarⅡ						
科目担当者	村田 治彦 MURATA Haruhiko						
単位数	4	配当年次	3 年	授業形態	演習	開講学期	通年
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科 [専門教育科目 演習] 他学部他学科履修×					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	裁判例を題材に、判例研究を通じて、法律の解釈論を学び、その能力を習得する。 課題となる判例を検討するレポーターを決め、レジュメを作成して、レポーターがそれに基づいて発表・司会進行する。 レポーター以外の者は、発表内容の分からないところを質問し、その内容を理解した上で問題点について意見を出し合って、どのように考えるべきかを明らかにする。 現実社会での法のあり方を知るために、法廷傍聴や法専門家事務所訪問を行う。						
授業の到達目標	民事訴訟手続を題材に、法の見方・考え方の応用能力を身に付ける。 日頃の判例研究のみならず、学内・学外の合同ゼミを通じて、民事訴訟と他の法律との連続・不連続性を明確にして、実際に「生きた法」について考える。 ①レポーターとしてのレジュメ作成（情報収集・整理能力、問題発見能力、問題解決能力） ②レポーターとしての発表（プレゼンテーション能力） ③レポーターとしての司会進行（コミュニケーション能力） ④質問（回数・内容）（コミュニケーション能力、問題発見能力） ⑤意見 [回数・内容]（コミュニケーション能力、問題解決能力）						
授業計画・内容	1	オリエンテーション			16	法専門家事務所訪問 1	
	2	法廷傍聴 1			17	判例研究 1	
	3	判例研究 1			18	判例研究 2	
	4	判例研究 2			19	判例研究 3	
	5	判例研究 3			20	判例研究 4	
	6	判例研究 4			21	判例研究 5	
	7	判例研究 5			22	研究報告 3	
	8	研究報告 1			23	法専門家事務所訪問 2	
	9	判例研究 1			24	判例研究 1	
	10	判例研究 2			25	判例研究 2	
	11	判例研究 3			26	判例研究 3	
	12	判例研究 4			27	判例研究 4	
	13	判例研究 5			28	判例研究 5	
	14	研究報告 2			29	研究報告 5	
	15	判例研究合同 1			30	判例研究合同 2	
授業外学修 (事前学修)	演習は、講義形式でなく、主体的な学習が中心となる。そこで、レジュメ作成等によって事前学習をやって貰わなければならない（180 分）。 分からない場合には、分からないまま放置するのではなく、サブゼミとして質疑応答の時間を設けるので、連絡して、質問して準備することが求められる。						
授業外学修 (事後学修)	発表し、質疑応答等によって新たに発見した課題については、次の発表に活かせるように、判例や文献等を調べ、自己学習を重ねて、テーマを深め、卒業論文の作成に繋げるようにする（60 分）。						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率		到達目標との対応
	レポーターとしてのレジュメ作成 (情報収集・整理能力)				40%		①
	レポーターとしての発表 (プレゼンテーション能力)				30%		②
	質問、意見				20%		③、④、⑤
	司会				10%		③
成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合						
教科書	特に指定しない						
参考文献	川嶋 四郎 ・笠井 正俊（編）『はじめての民事手続法』（有斐閣・2020）						
その他	ノートパソコンを持参して臨むこと！						